

まかどがわ

間門川排水機場に行ってきたよ！

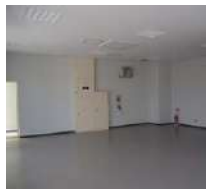
現在建設中の間門川排水機場では遠山鐵工所の吐出配管が使われているよ。
山梨県様のご協力のもと様子を見てきたので報告するね！



川上(右図①)からの眺め。左側の流れは川下へ。右側の流れは取水口から2台のポンプに接続。令和4年度稼働開始予定で現在土木工事中。



場外のポンプ場と吐出水槽(クレーン背後)を繋ぐ管の2020年11月の搬入風景。(山梨県様ご提供写真)



操作室として稼働する予定の3階にある部屋。



ポンプ場内2階。この下にポンプがある。

間門川は笛吹川に注ぎ込む支流のひとつで、河口付近で、芋沢川・大堀川と合流するよ。この河口付近は、甲府盆地の中でも低地で、昔から浸水の多かった地区。タクシーの運転手さんも「昔はよく田んぼで魚釣りしていた」と言っていたよ。間門川排水機上から見て上流部分には、国交省の管轄する柏排水機場があり大堀川から笛吹川への排水を担っているよ。そして下流部分にある甲府市管轄の同名の柏排水機場は、間門川氾濫時に周辺の田畑に溢れしてしまう水を間門川に返す機能を持っている。それでも、この地方では平成の年代にも浸水が起っているんだ。そうした事情を踏まえて、笛吹川流域全体の河川整備の一環として、今回の間門川排水機場が造られるんだよ。

<今回搬入された製品>

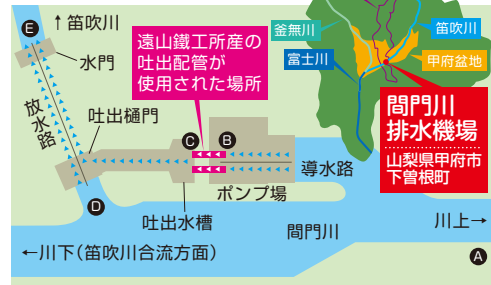
- 両フランジ短管 φ1500×611L
- パドル付両フランジ短管 φ1500×2824L
- 両フランジ曲管 φ1500×45°(1140L×1140L)
- 両フランジ短管 φ1500×3021L
- パドル付両フランジ片落管 φ1800×φ1500×1667L



場内。株式会社クボタ様のポンプと連結している箇所(右図⑤)。



場外。上の写真で搬入した吐出配管が設置された箇所(右図④)。



ポンプ場と間門川の位置関係。放水路は既に稼働中。

山岳に囲まれ、急流が多い甲府盆地

山梨県は、7割5分が山岳地帯。山に囲まれた甲府盆地は、プレートの境目にあり、古代は富士川海峡の一部だったんだよ。甲府盆地全体が湖だったという「湖水伝説」が残っていて市内には無数の河川が流れている。山からの距離が近く、河川の多くは急流。間門川も「普段はチョロチョロなんだけど、雨が降ると一気に増水する」と地元の方がおっしゃっていたよ。また、この辺りの河川は、山からの土砂が川底に溜まりやすく、土手を挟んで、周囲の平地よりも川底が高くなる「天井川」が多いことも、治水事業が大変な理由の一つだよ。地質的には山から運ばれた砂や石が多いので水捌けはよく畑作に向いているよ。

縄文時代から人が住む豊かな地域

間門川のある地域は「中道地区」と言って、宿場町もあった。縄文時代の遺跡や、古墳も数多く残っていて、昔から人が住んでいたことが分かっているよ。川のある所文明あり！

湛水の間門川

間門川は、普段、雨の降らない時はほとんど水が流れていないくて、川下の標高が低い地域では川の流れはほとんどなくなり「湛水」(水が溜まってしまうこと)になるよ。また、標高が低いので、笛吹川が増水した時には、間門川の流れは逆流してしまい、行き場をなくした水は氾濫してしまうんだ。そこで、右の図のようにポンプで強制的に排水して、周辺地域の水害対策する必要があるんだ。地域の方々に排水機場のことを聞くと、「とても助かる」「すごく感謝している」という声も聞こえてきたよ。ポンプ場は、費用がかかるから簡単には造れないけど、大事な役割を担っているんだね。治水事業は平時には意識されにくいけど、今後の温暖化による雨量の増大を考えるととても大切なことだよ。



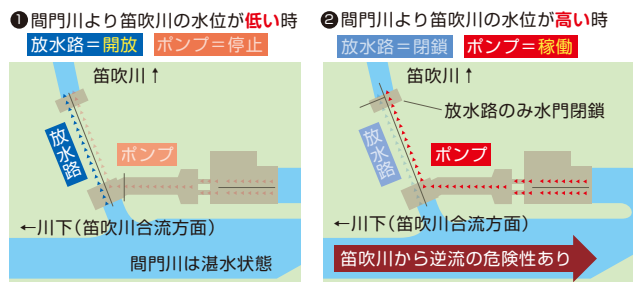
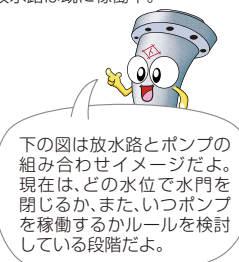
間門川排水機場周辺の水面。湛水なので水草が溜まっている。



間門川から見た吐出樋門(上図⑥)。奥に水門が見える。



水門出口。奥がポンプからの出口。(上図③)。



上の図は、現在も稼働中の放水路と、現在建設中の間門川排水機場の運用を簡単に図式化したものだよ。平常時笛吹川の水位が上昇していない間は、ポンプは稼働してなくて、放水路だけでも33m/sの水を放出できる。けれど、大雨などで笛吹川の水位が間門川より上昇してくると間門川の流れが逆流する危険性があるため、放水路の水門を閉じるんだ。放水路が使えなくなると、今度は下流から笛吹川が逆流し、間門川の水位は上昇する危険性がある。そこで、ポンプで強制的に間門川の水を笛吹川に放流することで間門川の氾濫を防ぐ計画だよ。ポンプの性能は、2台で13m/sの水を放出でき、過去の洪水レベルであれば浸水を防ぐ事が期待されるよ。

田畑が広がる間門川を川下から川上まで歩いてみたよ！

間門川は、標高400m程の山間から流れ出ているよ。河口付近で標高250m程。全長6km程度。取材に訪れた時は真夏で、「一番暑い日」と地元の方もおっしゃっていたよ。甲府の夏は、果物が豊富。この地方特産のとうもろこし「きみひめ」も糖度が果物並み。道を歩いていると、直売所がたくさんあって、新鮮な果物が並んでいたよ。河口付近は、工場も多いけど、田んぼが多い印象。川沿いにずっと歩いていくと、果物や野菜の畑が増えてくる。川面はほとんど見えず、ずっと葦が繁っていて、時々魚や亀がいたりしたよ。治水が大変な地域のようにけど、農作物がとても豊富で、豊かな地域だと感じたよ。



笛吹川に注ぎ込む河口付近。



川の管轄が変更になる看板。笛吹川は国が、間門川は山梨県が管轄している。国、県、市が一体となって流域全体の治水事業を進めなくてはならない。



河口付近にある食品メーカーの工業団地看板。



川下は水田が多い。奥に見える小山には山梨県内最古級の小平沢古墳がある。



曽根丘陵公園周辺は、古墳や縄文時代の遺跡が見られる。頂上には遊具やステージがある公園があり、家族づれが訪れていた。



直売所で買った「太陽」というスモモ。新鮮で食べた瞬間に身体が元気に！

「マカド」って何？

今回の取材で、地元の方向人かに間門の地名の由来を聞いてみてもわからなかったんだけど、マカドという地名は、実は全国にいくつかあるんだよ。「馬門」という文字を当てている所もある。多くは川の側にあり、柳田國男「地名の研究」には、「アイヌ語のマカ(開く、開けたる)と、ト(湖水)と言う二語から出たものではあるまいか」とあるよ。そして、興味深いことに、この地方の佐久神社や甲府市中心部の穴切大神社には、甲府盆地は昔(紀元前561年頃)湖だったという「湖水伝説」が残っているんだ。笛吹川周辺で間門川排水機場のあるあたりは、甲府盆地の中でも標高が低い地域。排水機場から間門川上流を眺めると、本当にこの辺りは湖だったのかもしれないと思ったよ。



間門川排水機場から眺めた川上方面。平地、丘陵地、山地と続いていく。



この点線から南側は標高300m~400mの丘陵地帯が続く



間門川中流。川を登っていくと、だんだん果物や野菜の畑が増えて来る。写真は、ナス(左)とスモモ(右)の畑。



間門川上流。完全に山道になっていて、少し大きめの石もゴロゴロ。分水嶺の峠のあたりまでずっと田畑が続いていた。

↓精進湖

「中道地区」

間門川のあるあたりは、「中道地区」と呼ばれているよ。「中道往還」という街道に由来するんだけど、その街道は、甲府盆地と駿河地方の海を結ぶ最短ルートだったんだよ。別名「魚道」と言って、鮮魚、塩や干物などが運搬されていた貴重な道。戦国時代、武田氏滅亡後は織田信長がこの道を通って帰ったようで、その時に徳川家康が整備したのが「右左口宿」だということだよ。多くの古墳や遺跡が残っていて、宿場町にもなっていたことから考えて、この地域は甲府盆地の中の重要な地域だったと考えられるよ。



まっすぐな道に古い蔵がたくさん並んでいる「右左口宿」。その向こうには、山が険しくそびえている。



佐久神社周辺。この辺りも山に囲まれ、農作地が広がる。

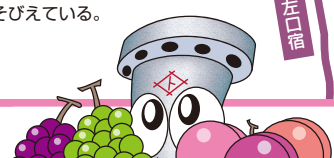


美味しくて見た目もポップな、とうもろこし「きみひめ」のアイス。(MAZE ICE CREAMさん)

間門グルメ

風土記の丘農産物直売所

間門のバス停のすぐ前にある「風土記の丘農産物直売所」は、中道地区をはじめとする甲府の農家さんの作物が並んでいるよ。とうもろこし、桃、スモモ、梨、ぶどう...季節に合わせた新鮮な果物や野菜を求めて、県外からもお客さんがやってくるそうで、開店前は何十人もの列ができていそうだよ。レストランも併設されていて、季節の野菜を使ったカレーが一番人気とのこと。間門川周辺は低地なので水害だけでなく霜の害もあるそうで、苦労が多いそうだよ。間門川排水機場のことを所長さんにお話ししたら、この地方の農家さんにとってはとても助かるものだと話されていたよ。遠山鐵工所の吐吐配管が、山梨の美味しい果物に繋がっていると思うと、ワクワクしてくるよね！



山梨の美味しい果物と野菜が勢揃い！



200以上の農家さんの作物が並び。



郷土料理「おざら」。ほうとうの冷やレヴァージョン？！



抜群の美味しさの桃ジュース！